



郁文館「人間力野球」

元日本ハム・田中幸雄投手がコーチ就任。動き出した「甲子園へのプロローグ」

郁文館高校

【住 所】東京都文京区向丘2-19-1

【創 立】1889年 【甲子園】なし

明治22年に私立郁文館として創立。野球部は2009年夏に東東京5回戦、2011年秋都大会ベスト8、2015年夏に東東京4回戦進出。



東東京の伝統校・郁文館に、元日本ハム・田中幸雄氏(投手)がコーチとして就任した。新たなスタートを切ったチームは、近い将来、東東京の頂点に登り詰める可能性を秘めている。(取材・伊藤寿学)

■ 元プロ野球選手がコーチ就任

荒川河川敷のグラウンドには、身長190センチの元プロ野球選手コーチがいた。

「田中幸雄」。1981年日本ハムドラフト1位投手。日本ハム、中日で計10年間のプロ生活を送り、通算25勝16セーブを挙げた。1985年にはノーヒットノーランを達成した実績を誇る。現役引退後は、横浜ベイスターズスカウト、BCリーグコーチなどを務めたのちに高校野球・菊川南陵、和歌山南陵で指導、

昨年9月に郁文館コーチに招へいされた。

田中コーチは「私の目指す野球指導と、学校の教育方針が同じ方向だったので引き受けさせてもらいました。自分の経験を、選手たちに伝えていくことで彼らの未来を変えていければ」と指導に熱を込める。田中コーチの就任によって、郁文館野球部は大きく変わろうとしている。

■ 荒川河川敷からのチャレンジ

郁文館の練習場は、荒川河川敷だ。生徒たちは授業後、文京区向丘の校舎からマイクロバスで移動し練習に取り組む。チームの指揮を執るのは、高橋雄仁監督。郁文館中学で部長、監督をつとめ、2015年秋から高校を任されている。現在は、高橋監督、安部翔馬助監督、田中コーチの3人体制でチーム

強化を図っている。高橋監督は「田中コーチのアドバイスをもとに、チームの課題を3人で共有しながら練習に落とし込んでいます。秋以降は基礎技術の徹底をテーマに、攻守の反復練習をやっています」と語る。

郁文館は、東東京で確かな足跡を残しつつある。2009年夏に東東京5回戦、2011年秋都大会ベスト8、2015年夏には東東京4回戦進出。昨秋大会は予選1回戦で実力校・日本学園を撃破し都大会出場を決めると、都大会1回戦で都立強豪・総合工科を8対1で下してベスト32入り。2回戦では高島に2対3で惜敗したが、チーム改革の効果が結果として表れた。近藤舜介主将(2年=外野手)は「試合の流れに乗ることで、郁文館らしい戦いができた。この勢いを春、夏へつなげたいと思います」と練習に励む。

■ ポテンシャルの高いチーム

チームは2年生12人、1年生18人が横一線でレギュラーポジションを争っている。チームは近藤主将、堤丈彦副将(2年)を中心に攻

守の戦力が整いつつある。投手陣の軸は、130キロのストレートと、多彩な変化球を操る関智也(2年)。練習でも常に全力を発揮できる選手で、今後の飛躍が期待される。関は「秋はベスト32に入れましたが満足はしていません。春、夏にそれ以上の結果を残して、野球部の価値を高めたいと思います」と静かな闘志を燃やす。内野手を固めるのは、吉田響(1年)、竹村侑翔(1年)、飯高皓大(1年=捕手)。新生・郁文館は、レギュラーの半数を1年生が占める若いチームとなっているだけに、ポテンシャルは高い。

高橋監督は「野球の技術だけではなく人間的に成長することが大切です。私たち指導者の役割は、選手たちの夢を追うプロセスをサポートすること。人としての成長が、必ず結果につながると考えています」と、野球を通じた人間力育成に力を注ぐ。

郁文館は、甲子園出場を目指して新たなスタートを切った。夢物語のプロローグはすでに始まっている。



郁文館
高橋雄仁監督

1984年北海道生まれ。室蘭栄-東京学芸大。郁文館コーチ、郁文館中学部長、監督をつとめ、2015年10月から郁文館監督。



勝ち
トシ 勝つための秘伝トレーニング
勝利のための走塁強化

昨秋、郁文館は機動力を重視した戦いで都大会ベスト32へ進出した。盗塁やエンドランなどの動きを練習から徹底、各選手がそれぞれの役割を果たすことで少ないチャンスを得点につなげた。高橋雄仁監督は「郁文館の目指す野球がみえてきました」と手応えをつかんでいる。

元プロの夢追人

田中幸雄 コーチ(元日本ハム・中日)

グラウンドには、球児と同じ目線で、高校野球に向き合う姿があった。昨年9月に郁文館コーチに就任した元プロ野球選手(元日本ハム、中日)。現役引退後、コーチングを学び、高校指導の現場へ。自身の経験を還元できることに大きなやりがいを感じながら、球児を指導している。指導の原点は「内発的動機づけ」。選手自身が好奇心を持って、自ら練習に取り組むことを求める。「私がかける言葉は、指示・命令ではなく、あくまで生徒たちが成長するための情報提供。やらされるのではなく、自分たちでやっていくことが大切です」。



1959年千葉県生まれ。流山高-電電関東(NTT関東)。身長190センチの大型投手。1981年日本ハムドラフト1位。現役引退後、高校指導者。2017年9月に郁文館コーチ就任。



堤丈彦 副将



近藤舜介 主将



関智也 投手